

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース／藤原
伸彦

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

教員養成特別コースにおいては、特にインターンシップ(実習)およびゼミでの指導を通じてその資質向上を目指すことになる。そこで、

- ①ゼミ担当学生一人ひとりに即して、細かな指導を行う。特に、児童生徒に対する思考支援についてと、コミュニケーション能力についての指導に重点を置く。
- ②思考支援については、ゼミ担当学生自身の実践記録をベースに、主に認知心理学の視点から指導を行う。また、コミュニケーション能力については、学生個別の状況に応じて細やかに課題を設定し、資質の向上を目指す。
- ③学生の実習校における授業実践と、それに関する省察を元に評価する。具体的には、授業実践のプロトコルと児童生徒の理解の程度を検討し、評価する予定である。

2. 点検・評価

- ①ゼミ指導で、院生が教育実習において実践する授業を作る際に、児童がどのように考えを進めていくかに着目させながら授業を作らせた。
- ②ゼミ担当院生の実践の記録をベースに、認知心理学の視点から指導を行った。
- ③院生の授業実践に関する省察をもとに、評価を行った。プロトコルの中で児童の発話から思考が促された点を見いだす作業を通して、院生のコミュニケーションスキルの課題を指摘し、次の実践につなげるよう指導した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①昨年度、教員養成特別コース院生に身につけさせたい授業実践力について検討した。本年度はその成果を元に学生の指導を行う。
- ②学校教育実践コースの最上級学生が3年生となり、主免教育実習での指導やゼミ指導を行うことになる。各種の機会を通じて、学生生活の支援や、教職に就くことに対する意識の向上、大学院進学に対する意識の向上をはかるようにしたい。また、他の学年の学生についても、適宜支援を行う。
- ③学生が自主的に実施している地域の子どもの対象とした活動(N*CAPなど)に対して、助言を行う。また、活動を計画する場所や設備を提供する。

2. 点検・評価

- ①板書の方法などをリスト化して院生に示し、模擬授業等で指導した。指導する中で、もっと根本的な課題、すなわちどのように自身の授業を振り返り、自らを高めていくか、ということが重要であることがわかってきた。来年度は、院生が毎週提出している週録を軸に、院生の授業実践力の振り返りを行わせることとした。
- ②折りにふれて、大学院について説明するなどの機会を設けた。
- ③学部生・院生に子ども歩き遍路やN*CAPに参加させ、子どもたちとふれあう中で教育実践の力量について振り返る機会を設けた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①教員養成特別コース院生の授業実践力について分析し、院生指導の方法論について検討する。
- ②鳴門教育大学教育と学校を考える会と連携し、「子ども歩き遍路」における教育的意味について検討する。

2. 点検・評価

- ①教員養成特別コースで、週録の記録方法および最終成果報告書の記載方法について議論し、院生の力量形成に向けて方法を考案した。2014年度は、それに従って院生指導を実施する予定である。
- ②子ども歩き遍路の教育的意味について検討した。特に、遊び論の観点から、子ども歩き遍路の時間的・空間的な状況に意味があることがわかってきた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

「四国の知GP」から継続して行われているe-Knowledgeコンソーシアム四国に関する業務に取り組む。

2. 点検・評価

eK4の活動に取り組んだ。2013年度後半に担当した授業をビデオ撮影し、eK4のコンテンツ化をはかりつつある。ただし、授業が7回しか担当しなかったため、15回分は揃っておらず、eK4の講義として成り立たせるために、ひきつづき不足分を作成していきたい。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

①附属幼稚園が文部科学省から指定を受けた幼小連携に関する研究開発の研究チームの一員として参画し、研究を推進する。具体的には、昨年度に引き続き、園児の「科学的思考」が遊びをとおしてどのように育って行くのかについての検討を行う。また、研究成果を元に、附属幼稚園における実践映像やそれについての考察をWeb上に蓄積した遊誘財データベースの充実を図る。

②地域連携センターの業務の一環として、地域と連携しつつ以下の企画を実施する。

②-1 大塚国際美術館、鳴門市と連携し、アートワークショップ「N*CAP」を実施する。

②-2 「鳴門教育大学 教育と学校を考える会」の事業として、小中学生を対象とした子ども歩き遍路等の企画を実施する。

②-3 「鳴門教育大学 教育と学校を考える会」と連携して、本学学生および鳴門市・徳島県の現職教員対象の講演会を開催する。

②-4 鳴門市教育委員会、小中学校と連携し、鳴門市教育の情報化推進協議会の企画運営に関わる。

②-5 公益財団法人e-とくしま推進協議会に委員として参加し、県内の教育におけるICT活用の推進を図る。

③本年度より、教員養成特別コース1年次生は、後期に附属小・中学校で実習を行うことになった。附属小・中学校と十分に連携をとった上で、院生の実践力向上を図る。

2. 点検・評価

①附属幼稚園の実践をおさめた「科学的思考データベース」を構築した。全国の研究者、保育者が使えるようになっており、現在約40名／園のユーザが登録されている。

②1-5について、全て実施することができた。

③附属小・中学校との連携の下、実習を行うことができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

--